



博物館通信



2026年1月発行 Vol.98

天文台の研究者に
聞いてみよう!!
Part.3



新たな星の見つけ方!?

次々と新たな星が発見されるけど、どうやって見つけているの? ずっと同じ場所の観測をしているのかな?

そんな疑問にこたえるために、京都大学岡山天文台で働いている天文学者の川端さんにお話を聞きました!

天体写真を見比べよう!

まず、同じ場所をうつした写真が2枚あります。左が昔の写真、右が最近の写真です。

この2枚をくらべると――

右だけに、新しく見えている星があります。

昔の写真



©Sloan Digital Sky Survey

最近の写真 (せいめい望遠鏡で撮影)



©京都大学岡山天文台

たくさん星があるので、どこにあるのか見つけるのは大変ですね。探せましたか?

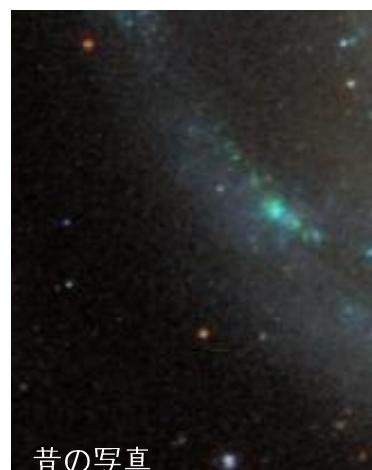
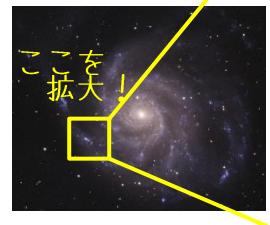


どこだろ? 全体的に少し明るさと色が違うのはわかるけど…
たくさん星があって分からなーいなあ

ここでヒント!

写真の中には“ぐるぐるした形の銀河”が見えますよね。その“うで”的どこかにあります。

「まだ見つからないよ～」という人のために、少し写真を大きくしてみましょう。
どうでしょう?



昔の写真

©Sloan Digital Sky Survey



最近の写真

©京都大学岡山天文台

ここに新しい星が見つかりました！



ほんとだ！？
小さすぎてわかんないよ。
たくさんある星の中から
どうやって見つけるの？

この新しい星は、「超新星」と言います。星が一生を終わるとき、ものすごいエネルギーで大爆発して、とても明るく光ります。

わたしたちが超新星を見つけるときは、昔の写真と今の写真をくらべて、急に明るくなつたものがないか探します。

最近の写真

©京都大学岡山天文台

星が多いところでは目で見つけるのはとっても大変なので、コンピューターで2つの写真をひき算して明るくなつた星がいかをさがします。

せいめい望遠鏡で撮影したこの写真は、時間変化で明るさが変わるのがわかりやすいね！



©京都大学岡山天文台/東京大学

3/3 皆既月食



プラネタリウム冬番組



「南極ヒーリング」～この地球の果てで～

地球で一番寒い場所・南極。

そんな過酷な気象条件の場所に今も、昔のままの雄大で美しい自然環境が残されています。澄んだ空気に映る蜃気楼、大気を舞う氷の結晶に太陽光が反射してできる太陽柱など、日本ではなかなか見ることのできない自然現象をご紹介。

また、日本では限られた場所からしか見ることのできない南十字星をはじめ、街明かりのない南極の満天の星をおとどけします。

浅口市中央公民館北側駐車場で観望会を開催予定！

詳しくは当館HPでご案内します。



〒719-0232
岡山県浅口市鴨方町本庄 3037-5
TEL/FAX 0865-44-2465

<http://www1.city.asakuchi.okayama.jp/museum>